



暮らしの広がり与交流（原始・古代）

的場史跡公園（的場遺跡、県史跡）

営みのはじまり

市域における人々の活動の舞台は、はじめは丘陵と山麓であった。秋葉区の新津丘陵では、約2万年前の旧石器時代以降の狩猟具が点々と発見されている。西蒲区の角田山麓では、約14,000年前の狩猟具が最古である。

約6,000年前の縄文時代前期、人々は沿岸部に形成された砂丘に生活の舞台を広げた。最も内陸に位置する砂丘列にある笹山前遺跡（江南区）や布目遺跡（西蒲区）からは、縄文時代前期初頭の深鉢形の土器が出土している。



縄文前期の土器
笹山前遺跡出土
（市指定文化財）



北と東の品物
古津八幡山遺跡（旧史跡）出土
左：アメリカ式石鏃



右：鹿角製鉄剣

交流と戦争

弥生時代、市域は西日本の文化と東北地方の文化が接する地域であった。北陸地方の特徴をもつ土器と東北地方の特徴をもつ土器がともに、六地山遺跡（西区）をはじめとする複数の遺跡から出土している。

弥生時代後期、新津丘陵や角田山麓に高地性集落がつくられた。新津丘陵の古津八幡山遺跡は、大規模な高地性環濠集落である。集落は丘陵上に立地し、周囲に濠をめぐらせている。このことから中国の歴史書『魏志』倭人伝に記される「倭国乱」との関わりで、戦いに備えた防御的な性格をもつ集落と考えられている。



弥生後期の土器
古津八幡山遺跡出土
左：北陸系土器
右：東北系土器



高地性集落と古墳の分布

北の首長たち

古墳時代前期、ヤマト政権の影響が強まり、角田山麓に山谷古墳（前方後方墳）、菖蒲塚古墳（前方後円墳）、平野部に緒立八幡神社古墳（円墳）などが造られた。越後平野は、前期古墳が分布する日本海側最北の地である。

阿賀野川をさかのぼった会津盆地にも、多くの古墳が分布している。東北地方へと勢力を拡大するヤマト政権にとって、越後平野は前進の拠点地域であった。また、越後平野は北海道の特徴をもつ土器が出土する南限であり、北方の文化も入り込んでいた。

古墳時代前期末から中期半ばにかけて、新津丘陵に古津八幡山古墳（円墳）、信濃川・阿賀野川の河口付近に形成された砂丘列上に牡丹山諏訪神社古墳（円墳）が造られた。牡丹山諏訪神社古墳では、ヤマト政権との深い結びつきを示す円筒埴輪や須恵器が出土している。



緒立八幡神社古墳の墳丘上の葺き石（県史跡）



発掘調査中の牡丹山諏訪神社古墳（県史跡）



菖蒲塚古墳周辺の台地（国史跡）

北のフロンティア

古墳時代後期、ヤマト政権は地方の豪族を国造(地方官)に任命した。市域周辺では高志深江国造が任命された。高志深江国造は、日本海側最北の国造である。

大化3(647)年、ヤマト政権は北方の蝦夷支配の拠点として淳足柵を設置した。『日本書紀』に「淳足柵を造り、柵戸を置く」という記事がある。柵戸は兵士を兼ねた開拓民とされる。淳足柵の遺跡は発見されていないが、阿賀野川右岸の河口部(後の通船川河口)付近の砂丘地にあったと考えられている。

淳足柵は8世紀前半までに沼垂城の名に変わった。

美姿顔善談咲造淳足柵置柵戸老人等相謂之曰
 數年鼠向東行此造柵之地乎

『日本書紀』より淳足柵の記事

産業の勃興

地方制度が整備されたころ、須恵器や鉄の生産が始まった。新津丘陵の東側には須恵器の窯跡が、西側には鉄塊を生成する製鉄遺跡が多く発掘されている。須恵器や鉄の生産は、地域の自給力を高めるために、他の地域から技術者を招くなど、国や郡の役人が主導して進めたと考えられている。



「杉人鮭」と記された木簡
 的場遺跡出土
 (県指定文化財)

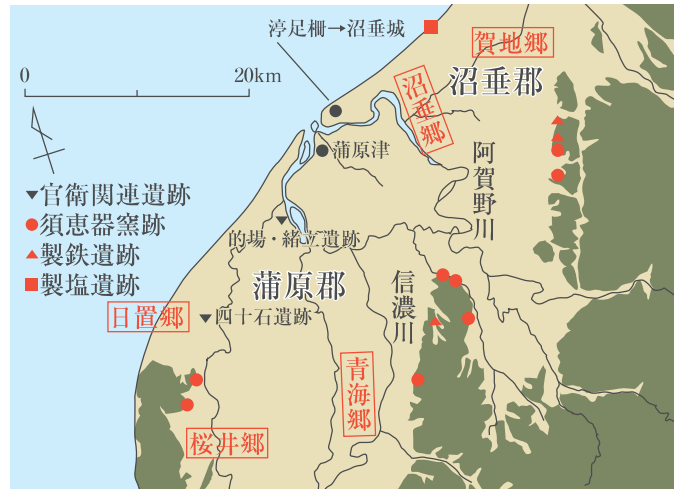
信濃川左岸の低地ではサケの漁獲・加工が行われた。サケは、税として都(朝廷)に納める越後国の特産品であった。的場遺跡(西区)からは、大量の土錘(素焼きのおもり)や木製の浮きなどの漁具のほか、役人が身に着けた革帯の飾り金具や沓(靴)、木札に文書を記した木簡、土器に文字を記した墨書土器などの官衙(役所)的な遺物が多く出土している。役人が主導して大規模な漁業が行われ、漁獲物が管理・仕分けされていたと考えられる。

的場遺跡に隣接する緒立遺跡(西区)からは、須恵器の種類・数量を示す木簡と、内水面交通を介して集まった大量の須恵器も出土している。また、海岸砂丘地帯では塩が作られた。

越後国の成立と蒲原津

7世紀末、越国が分割されて越後国ができた。奈良時代が始まる8世紀前半、国一郡一郷を単位とする地方制度が整った。市域は阿賀野川を境に、北が越後国沼垂郡、南が越後国蒲原郡となった。沼垂郡には沼垂郷・賀地郷など、蒲原郡には桜井郷・青海郷などがあった。

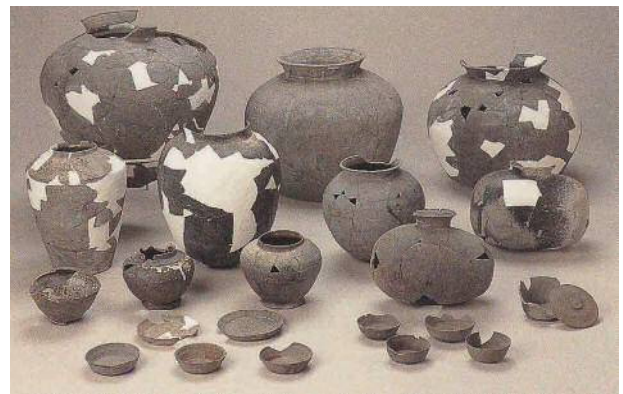
また、信濃川の河口には蒲原津があった。蒲原津は越後国の国津(公的な港)で、内水面の水路が結ばれて人や物資の集まる交通の要衝であった。諸国の貢納物(税)の輸送には陸路と海路があったが、海路の場合、越後国の貢納物は蒲原津に集められ、敦賀津(福井県)、塩津(滋賀県)、大津(滋賀県)を通して都まで運ばれた。



古代新潟市域の郡・郷と生産遺跡の分布



木炭窯(□)と製鉄炉 金津丘陵製鉄遺跡群



須恵器 緒立遺跡出土